「公開講座」12年の活動と課題

―― 学校を地域にひらくとりくみ ――

公開講座実行委員会

「公開講座」12年の活動と課題

― 学校を地域にひらくとりくみ ―

札幌北陵高等学校ＰＴＡ公開講座実行委員会

はじめに

本校ＰＴＡ活動のひとつに「公開講座」があります。本校は昭和47年に開校して今年で17年を数える普通高校ですが、この講座は、当初、その５周年記念事業の一環としておこなわれたものでした。しかし、これに参加した受講者の間からひきつづき開講してほしいとの強い要望が出されたこともあって継続の努力が試行され、後にＰＴＡ研修講座として開設するようになりました。すでに12年を経過し、今年の開講準備に入っているところです。

この１、２年の実施状況をみていますと、講座数10～11、講師26名、受講者 1,000～1,500名（延べ数）となっており、開講当初の、校舎落成にかかわる父母・地域住民の労に報いる取り組みとして、

- ○学校を地域に開き
- ○父母・地域住民の学習・文化の要求に応え、
- ○学校・父母・地域住民との連携を密にする

という意図は今日もそのまま生きて追求されていると言ってよいと思われます。

以下、本校のＰＴＡ研修講座として開設されている「公開講座」について、その概要を紹介させていただきます。

1.　「公開講座」の開設をめぐって

昭和47年４月に開校した本校は、まだ自分の校舎がありませんでした。そして２年半余、先生をはじめＰＴＡ会員や地域住民のただならないご支援、ご援助のお陰をもって、49年12月に子どもたちの学舎を落成することができました。それは、文字通り学校・父母・地域の三位一体の事業でした。それだけに父母や地域住民の本校に対する期待や関心には、並々ならないものがありました。

51年に創立５周年を迎え、またそれまでの本校の教育実践が認められ、道教委より51年度の学校表彰を受けるなどして、先生たちはそれらが父母・地域住民の大きな支えによるものと感謝し、その気持ちを伝えるべく、５周年記念事業の一環として地域の父母・成人を対象とした公開講座を52年の１月から３月にかけて開講したものでした。

ここでは「染色」「書道入門」「明治維新」「合唱」の四講座をおこなったのですが、それらはいずれも日頃の授業をそのまま公開したものでした。そこには父母・地域住民への感謝の気持ちばかりでなく、これを公開することによって子どもたちが学校で平生どんなことを学んでいるかを知ってもらい、そのことを通して親と子との、また学校・家庭・地域との相互の理解を深め、その学習・文化への要求にも応え、一層の連携を強めることにつながるにちがいないとの思いが込められていました。このことは、

> ……高校がもつ社会資源を父母を中心とした住民に開放し、生徒が学んでいる中身を学んでもらうことによって、父母と生徒との共通理解に役立てると同時に、父母や住民の学習要求に少しでも応えたいと考えたものである。このことによって、高校の教師や学校が理解され、親近感をもってもらい、同時に開校以来、陰に陽に、いろいろな意味で支援いただいたことに対する感謝の気持も示したかったのである。

という初代校長の本間末五郎先生のことば（昭和52年５月９日付読売新聞「開かれた高校」より）

がよく示しています。そしてまた、この講座のその時点における意義と課題については、同年３月号の「北海道教育経営」の一文が語ってくれていますので、以下に抜粋して紹介します。

父母地域との連帯を目指して

「高校教育が大衆化した現在、生徒の意識にたよっていただけでは、生徒指導ひいては学校教育は成立しない。どうしても学校と父母、学校と地域、あるいは父母どうしの連帯が必要になる。ＰＴＡの地区活動を核にして地域社会を再構築しようという壮大な計画は、父母の参加が思うようにいかず、足踏み状態にあるがその壁を破るために、学校を地域に開放するという意味も含めて公開講座を計画し、実行した。書道、音楽、染色を軸に、社会科の主題学習で取り上げた「明治維新」を組み合わせて、趣味的な興味と学問的な興味との両方に応えることをねらったものである。今年度は初めてということで参加者も 150 名程でそれ程多いとはいえないが、子供の成績と進学や就職の相談以外に学校に足をはこんだことのない父母や地域住民を学校の味方に引き入れたことは、大きな意味がある。学校や生徒に対する暖かい見方が広がっていけばそれは生徒にとって大きな支えになることであろう。またこの公開講座には、子と親とが同一の学校で同じことを学ぶことによって親と子に共通の話題を提供するという意味もある。それは親と子の断絶を埋め、子には心理的な安定感を与えるという効果が期待できる。こういった地域や父母の連帯を進める活動もさらに拡充されていくであろう。ただこの種の活動は学校主導という形で進めていった場合、過重負担や参加意欲の点で問題がでてくることが考えられる。」

こうして始まった公開講座は当時のマスコミからも注目され報道もされていますが、継続して実施するとなると、資金の面で目途がつきませんでした。１年目は記念事業ですからその基金でまかなったものの、当初はそれ限りの計画でしたから何の準備もなかったのです。しかし、受講者から継続実施を望む声が多く寄せられるに及んで、２年目は、札幌北陵地区生涯学習実行委員会主催・本校ＰＴＡ後援の事業として「社会教育振興奨励補助事業」の申請をおこなって道から12万円の交付を受け、これにＰＴＡからの若干の助成と参加料（ 300 円 ）で何とか開講することができました。

この奨励事業の補助は新規事業について１回限りというものですから（ 幸い53年度も15万円の交付を受けることはできたものの ）、以後は当てにするわけにもゆかず、どうしたものか関係者の間で協議をすすめました。その結果、受講者の要望の強さからいっても、開講当初の願いからいっても、今後この公開講座を長期にわたって実施してゆくことができるように、本校ＰＴＡの独自の研修事業として開設することを決めたのでした。

2.　「公開講座」の運営と実施状況

(1)　どのように運営しているか

54年５月、私たちはＰＴＡの総会で公開講座の予算として20万円を計上し、不足分は受講料でまかなうこととして、以来、ＰＴＡの中に「公開講座実行委員会」（ 父母２名、地域住民２名、教員若干名 ）を組織し、毎年この事業をおこなってゆくことを決意しました。そしてこの年、10講座を開講しましたが、翌年からは35万円計上して原則として受講料の徴収をやめ、講座受講に際して必要な場合に限り実費のみを負担していただくことにしました。現在はこれに55万円を充てていますが、今日の「公開講座」の原型は、この当時にほぼつくられていっているのです。

企画は常任委員が担当し、運営委員会（ ＰＴＡの代議機関 ）で決定して執行するのですが、講座の世話係りは父母が分担しています。講師は当初

からすべて本校の先生にお願いしています。これは「教育活動の内容を父母と地域に公開する」という発足当時の理念を大事にしているからです。ですから、会場も本校の校舎・施設を開放していただいておこなっています。勿論、このために先生たちの本務である教育活動やその学校運営に支障があってはなりませんから、私たちも十全な配慮はしていますが、何といっても心苦しいのは、すべて先生たちの自発的な奉仕活動に依存しているということです。これがなければ本講座も成立しないのですから、今後もそうせざるを得ないにしても、受講者の熱意と先生たちの自発的な奉仕、そしてその上に築き出される父母と地域とともにある学校 — この理想の追求に私たちＰＴＡが少しでもお役に立つことができればいいと念じながら、この事業に取り組んでいるところです。

(2) 実際の取り組みとその現状

以下は昨年度の公開講座の「案内」ですが、次のようになっています。

ＰＴＡ・地域の皆様へ

昭和62年６月30日

北海道札幌北陵高等学校公開講座実行委員会
代　表

昭和62年度「公開講座」の開設について

万緑の候、皆さまには益々ご清栄のこととお喜び申しあげます。

さて、本校も昭和47年４月に開校して以来、16年目を迎えました。地域社会と共に歩む学校づくりを目ざし、昭和51年開校五周年記念事業の一環として始められた公開講座もその後ＰＴＡ研修講座として継続され、今年は12回目を数えてますます発展しております。

皆さまには講座内容をご覧になり、ご近所の方たちとお誘い合せの上、ふるってご参加くださるようご案内申しあげます。

１．目　　的

(1)　ＰＴＡ、地域住民の研修活動の場とする

（略）

(2)　学校、家庭、地域との連携を密にする

（略）

(3)　教師の地域社会に対する奉仕活動の場とする

（略）

２．主　　催　札幌北陵高等学校ＰＴＡ公開講座実行委員会

（略）

３．講　　師　札幌北陵高等学校教職員

４．参加対象者　札幌北陵高校在校生父母と地域の成人住民

５．期　　日　昭和62年６月下旬～昭和63年３月末日の平日の夜、土曜日午後、日曜日、休業日など

６．会　　場　札幌北陵高等学校

◎受講申込みについて

申込み先と問合せ先　札幌北陵高校

（略）

申込み締切り　原則として、各講座開講日の一週間前までとします。但し定員に達した場合は先着順で締切りますので、お早めにお申し込み下さい。

《講座－１》　俳　句　入　門

内　　容　俳句の実作

実作にまさる鑑賞はない。閑暇の少ない生活の中に詩心を喚び起こし、句作りの楽しさを味わう。

世話役	
定員	若干名
時と回数	第1回目　昭和62年9月26日(土) 午後1時30分～4時00分 第2回目以降は世話役と受講者の相談で決定。 （月に1回の予定で7回継続）
場所	北陵高校作法室
受講者の用意するもの	筆記用具

《講座－2》 源氏を知る会

内容	「光源氏と知り合いになってみませんか？」 この呼びかけでスタートした「源氏を知る会」も、もう4年になり、源氏は今36歳の春を迎えた所です。六條院を舞台とした王朝の四季絵巻が、うら若い玉蔓との恋愛を軸にこれから展開してゆきます。彼とつき合ってみたいと思し召す方は、どうぞお気軽にお越し下さい。 なお、当面本がない方にはプリントを用意いたします。また、途中から入られても筋はわかるような用意もしてございますので、ご心配なさらずおいでください。
講師	
定員	特になし
時と回数	昭和58年9月より継続中 毎週土曜日　13：30～15：30
場所	北陵高校1年4組教室
受講者の用意するもの	なし

《講座－3》 合　　唱

内容	楽しい基礎練習（リトミック、発音、リズム、音程、発声）と希望の曲も含めて合唱を楽しむ（2部合唱、3部合唱）。
講師	
定員	特になし
時と回数	昭和62年9月19日(土)午後1時30分～3時30分までを第1回として7回継続、2回目以後の実施日は、講師と受講者の相談で決定。
費用	800円（テキスト代）
場所	北陵高校音楽教室

《講座－4》 書 道 入 門

内容	楷書の基本と応用。楷書を学び書くことの楽しさを味わう。
講師	
定員	35名
時と回数	昭和62年9月26日(土)　午後1時30分～3時30分を第1回目として5回まで継続、2回目以後の実施日時は講師と受講者の相談で決定。
費用	300円（半紙等）
場所	北陵高校書道教室
受講者の用意するもの	筆と墨

《講座－5》　弓　　道

内　　容　日常の運動不足や精神的ストレスを心身共に解消して明日の活力を求めましょう。年齢性別に関係なく上達可能です。

講　　師

時と回数　7月18日(土)～毎週土曜日　13：30～15：30（多少遅れても良い）
15回30時間程度　希望者の要望でその他の曜日の追加設定も可。

場　　所　晴天弱風　屋外射場
雨天又強風のときは中止。

服　　装　運動靴、ジャージ、トレパン、婦人は下の広がるスカートも可、シャツは襟ボタンのないもの。

定　　員　若干名

目　　標　一応の射技を身につける。

費　　用　1年目　矢一手（二本分）　3,000円
2　〃　1,500円
3　〃　1,000円
（弓具のお持ちの方は無料です）

個人弓具　弓具一切は学校のものをお貸し致します。

《講座－6》　デコパージュ

内　　容　木、金属、ガラス、陶器、プラスチックス、皮、布などあらゆるものに絵などの印刷物や写真をアレンジして貼り、その上に上塗液を塗り重ねてデコレートするアートです。

講　　師

定　　員　20名程度

時と回数　昭和62年9月19日(土)　13：30～15：30　5回
2回目以降は講師と受講者の相談で決定

費　　用　500円

受講者の用意するもの
- 材料　第1回目は卵のデコパージュを作りますので卵1個
- ハットピンまたはコサージピン、小花の綿レース
- 卵に貼る絵や写真の印刷物

《講座－7》　囲　　碁

内　　容　打碁を楽しみながら、技術の向上と会員の親睦をはかる。
初心者の方も歓迎します。

講　　師

定　　員　30名

時と回数　第1回目　昭和62年9月19日(土)　10回
毎月第1土曜日と第3土曜日
午後1時30分～3時30分

場　　所　本校小会議室

受講者の用意するもの　特になし

《講座－8》　高校生の心と身体は、今どうなっているか

－賢く、すこやかな発達を実現するために－

内　　容　いま子ども、青年はどのような環境の中で生い育ち、どのように発達してきているのでしょうか。その実態に迫りながら、いま家庭、学校、地域に求められている課題が何であるかを一緒に探っていきます。

講　　師

定　　員　特になし

日　　時　昭和62年９月19日(土)、26日(土)の２回　午後２：00～４：30
場　　所　北陵高校会議室
費　　用　無料

〈講座－９〉　体　　育

内　　容　軟式庭球(テニス)　軟式庭球の基本的な技能の習得とゲームを楽しむ。
講　　師
定　　員　先着20名に限る
日　　時　９月４日(金)から毎週金曜日
　　午後６時～７時30分で７回継続。
費　　用　500円（保険料）
場　　所　北陵高等学校体育館
そ の 他　受講者は運動着と運動靴を各自で用意。
　　ラケット、ボールは主催者側で用意する。

〈講座－10〉　自然観察(円山公園を中心に)

内　　容　・植物に親しむ
　　名前の調べ方、標本のつくり方、写真のとり方
　　・動物の進化
　　円山動物園を散策しながら

講　　師
定　　員　50名
日　　時　10月４日(日)　10時～15時（10時地下鉄円山公園駅バス停側集合）
費　　用　入園料
受講者の用意するもの　ハイキングの服装、昼食

また61年度には、地理巡検を軸とした次のよう　　な講座も開講しています。

〈講座－１〉札幌の街を見よう

学習テーマ	内　　容	講　師	日　　時	場　所	定　員	参加料
地図を読む	日常我々が利用している地形図の基本的なことを学び地図を楽しく見る方法を身につける。		昭和61年10月11日(土) 午後１時30分～３時30分	北陵高校 社会科教室	50人	600円
札幌の街を見る・動物園で探る人の進化	札幌市内の特色ある地域を貸切バスで巡検し、見学観察する。また、動物園で様々な動物をみながら、人の進化の歴史をたどってみる。		昭和61年10月12日(日) 午前９時～午後５時	札幌市内	50人	

注　1.　バスに定員がありますので、受付順でしめ切ります。
　　2.　受講生が用意するもの。昼食・雨具
　　3.　雨天決行します。
　　4.　コース（予定）
　　北陵高校 → 新琴似四番通 → 琴似八軒 → 新川 → 札幌新道 → 発寒鉄工木工団地 → 国道12号 → 発寒川扇状地 → 琴似本通 → 屯田兵屋 → 中央市場 → 円山動物園 → 旭山公園 → 偕楽園 → 藻岩山 → 北電発電所 → 平岸街道 → 南郷通 → 丘珠飛行場（札幌空港） → 石狩街道 → 屯田団地 → 北陵高校　※□は下車見学地
　　5.集合時間　８時50分　北陵高校前

〈講座－2〉小 樽 を 見 よ う

学習テーマ	内　　容	講　師	日　　時	場　所	定　員	参加料
小樽巡検	天然の良港として発展してきた小樽の街をバスで巡検し、自然や歴史・文化にふれる。		昭和61年9月21日(日) 午前9時30分～午後5時	小樽市	50人	600円

注　1. バスに定員がありますので、受付順でしめ切ります。
　　2. 受講生が用意するもの。昼食・雨具
　　3. 雨天決行します。
　　4. コース（予定）
　　北陵→浅函→［小樽文学館］→日本銀行小樽支店→運河→［旭展望台　小林多喜二文学碑］→［石川啄木碑］→北陵
　　5. 集合時間　9時20分　北陵高校前

※［　　］は下車見学地

受講者はおおむねＰＴＡ会員が40％、他は地域住民であり、40代から50代の女性が多くを占めています。中には70歳を超える方たちも受講しており、俳句や源氏物語（以上通年開講）、地理巡検、書道などは、比較的年齢の高い人びとから好評をもって迎えられているようです。以下に昨年度の「実施一覧」を掲げておきますので、ここからその実情をご推察いただければ幸いです。

講座番号	講座名	内　　容	回数	受講者延数	実　施　日
1	俳句入門	俳句の実作を楽しむ	7	118	4/25. 5/23. 6/27. 7/18 8/22. 9/26. 10/24
2	源氏を知る会	源氏物語の講読会	41	454	4/4. 11. 18. 25. 5/2. 9. 16. 23. 30. 6/6. 20. 27. 7/4. 11. 18. 8/1. 8. 22. 9/19. 26. 10/3. 24. 31. 11/7. 14. 21. 28. 12/5. 12. 19. 1/16. 23. 30. 2/6. 13. 20. 27. 3/5. 12. 19. 26
3	合唱	基礎練習も含めて合唱を楽しむ	7	71	9/19. 10/24. 31. 11/7. 14. 28. 12/5
4	書道入門	楷書を楽しむ	7	96	10/17. 24. 31. 11/7. 21. 28. 12/5
5	弓道	一応の射技を身につける	12	61	7/18. 19. 25. 26. 8/1. 2. 8. 9. 22. 9/3. 12. 19
6	デコパージュ	木、金属、ガラス等に絵、写真、印刷物をアレンジして貼り、上塗液でデコレートする	7	63	9/19. 26. 10/24. 31. 11/7. 14. 28
7	囲碁	打碁を楽しみながら技術の向上をはかる	8	26	9/19. 10/24. 31. 11/7. 21 12/5. 12. 1/30

8	高校生の心と身体は、今どうなっているか	高校生の現実の実態に迫りながら、いま家庭や学校、地域に何が求められているかを探り考えてみる	2	41	9／19. 26
9	軟式テニス	基本的な技術の習得とゲームを楽しむ	7	87	9／4. 11. 18. 25. 10／2. 9. 16
10	自然観察	・植物に親しむ ・名前の調べ方 ・標本のとり方 ・写真のとり方 ・動物の進化 ・円山動物園を散策しながら	1	11	10／1
	計	10講座	99	1,028	62. 4. 4 － 63. 3. 26

ア、「俳句入門」は、原則的に月1回開講しているが、講師の病気入院のため10月までの7回で中止した。

イ、「源氏物語」は、原則的に週1回開講しており、受講者数には以後の推定人数が加算されている。なお源氏物語五十四帖のうち、現在三十一帖「真木柱」を講読中である。

ウ、「書道入門」と「デコパージュ」は当初5回の予定であったが、受講者の希望により7回の開講となった。

エ、「囲碁講座」は当初10回の予定であったが、日程等の事情から8回で閉講した。

オ、昨年度は11講座、109回、延数1,515名であったが、今年度は上記のような実績となった。

それではこれらの講座を受講されている方たちは、それをどのように受けとめているでしょうか。受講日誌の記録やアンケートの感想・意見からその一部を原文のまま紹介して、ありのままの実態をお伝えしたいと思います。

＜俳句入門＞

△　雪の中初めての句会でしたが、出席率は良好。冬籠もりの中であればこそ、却って熱がこもるかも知れない。

老いも若きも、時には男であることも女であることも忘れての句作、だからこそ楽しいのかも知れない。

心に鬱積することがある時も、誰方かの俳句のとした気分を味わったりして過ごしている昨今ですが、果たして自分自身そんな句作をしてるかどうか？

＜源氏を知る会＞

△　回を重ねる程に興味深く、毎週土曜日が楽しみです。学ぶことの喜びを改めて確認しています。せまかった視野が少しは広くなったように感じています。今後この講座が末長く続きますように望みます。

＜合　　唱＞

△　以前から講座の評判はおききしていましたので、今回やっと参加できて嬉しかったです。人

数が少ないのが残念でしたが、とても有意義で楽しかったです。私は歌う時に気張る（特に高が心に浮び、心和むことも多い。そこに居合わせなくても俳友達の励ましを感じ、又、ほのぼ音）くせがあったので、それを直したくて参加しました。有難うございました。

△　年齢を忘れて若い方と共に思いきり声を出し、ストレス解消に大変役立ちました。先生の熱心なご指導に厚く御礼申し、これからも続けて参加したいと思います。もし出来れば、土曜以外の曜日にしてほしいと思いました。

＜書道入門＞

△　清書という事もあって、いつもの静けさに加えて緊張感あり。

毎時間、静かな落着いた雰囲気の中にも、時折笑いを織込む講義にすっかり引き込まれ、時間の経つのが早く感じられます。

緊張、静けさ、和やかと、好きな状況の中で楽しく勉強させて頂き、有難く思います。

△　75才のばあです。楽しく、ぼけもせず暮らしております。ありがとうございました。書道のおかげです。一番最後の年賀状の講座がよかったと思います。また機会があったら来たいと思います。

＜弓　　道＞

△　加藤先生の要点を強調した懇切なご指導を感謝しております。本日の座射礼、特に開き足等、次第に難しさと奥の深さを感じます。努力しなければと思います。

私事ですが、戦時中弓を習いはじめ、「巻藁千本が基本」と巻藁射法のみを教わる内に動員、兵役。的を射ることを許されぬまま弓を離れて既に45年。本講座のおかげをもって、諦めていた弓と再会、講座のある週末が楽しみな今日此頃です。

＜デコパージュ＞

△　本当は今回5回目で講座は終りだったのですが、作品が途中なので、もう1回来週する予定です。そして、来週の作品の出来具合によって、もう1回開講するかどうか決めることにしました。

素敵な作品が出来上って来るので、みんな一生懸命、時間の経つのも忘れて楽しくやっています。今日は1時間位延長してしまいました。

＜高校生の心と身体は今どうなっているか＞

△　子どもより先に親が自分の生き方、人生論を持たなければいけないという ― 本当にそうだと思います。私達の育った時から見るといろいろと大変な時代を生きている今の子ども達は、かわいそうな気がします。けれど、そんな中をこそたくましく乗りきって生きていってほしいと願わずにはおれません。

△　前回の夜、子ども達と話してみました。親と子と一緒に受講できたら面白いのにと、高校生の子どもが話して居りました。「自我にめざめ、悩み、旧い自分を乗りこえる」ということが、親も子もずい分遅いようです。そのことに気づいて驚きました。

二回の講義は大変有意義な時間でした。講師の先生のお話も楽しく聞かせて頂くことが出来ましたことに感謝いたします。有り難うございました。良い講座ですのに、寒い、夕暮れが早い、他校（小・中）の行事とぶつかるなどの事情で参加したいのに参加が出来ない方もいるようです。開講時期についてもう少し早い時期に出来たら、と思います。よろしくご検討ください。

△　子供がいろいろな問題を投げかけてきた時、私は自分自身の育ってきていない部分を知らされます。それを過ぎていく時、自分も子供と一緒に育っていることを感じ、喜びも感じます。この講座は、視野を広げてくれ、私にとってはとても貴重です。どうも有難うございました。

＜体育（軟式テニス）＞

△　参加者全員が毎回楽しく、一生懸命練習できましたことは、特に先生方の心暖まるご指導のおかげだと深く感謝しています。「７回では足りないね。もう少し続けたかったね」という声も聞かれ……最後にお互いの電話番号をメモしたり……。来年もぜひ参加しようねと皆とお別れ。

＜自然観察＞

△　昨年の小樽市内見学に次ぐ２回目の校外見学観察参加、秋晴れと懇切な先生のご指導で極めて有意義な一日でした。本行事は町内会の回覧で承知しました。せっかくの講座を見のがすことのないようにと願っております。

△　いつも目にしている植物ながら、いかに名前を知らなかったかと痛感しましたが本当にくわしく、わかりやすく教えていただき有難うございました。動物園の方も久し振りでしたが、ただ見るだけでなく、骨格などの違い、進化の様子がよくわかりました。来年の公開講座が楽しみです。

△　芸術の森、野幌森林公園にも出来ましたらお願いします。初めての円山に登りました。円山に住んでおりました時、今36才の息子達が庭のようにしており、私もお陰様で話題の中に入れます。有難うございました。

＜小樽を見よう＞

△　初めて参加させて頂きました。以前から伺ってはいましたが、この様に親切な催しとは予想がつきませんでした。札幌には30年も住みながら、すぐお隣りの小樽は唯の通過地点であったのです。今日を機会に小樽をもっと深く知りたい欲望に浸っています。会費が安すぎる感じです。先生方は日曜日ですのに、本当にご苦労様でございました。よい思い出と共に、文学館見学によりもう一度本棚の本を読んでみたいと思っています。有り難うございました。

△　計画全体としてよく出来ていると思う。見学箇所・解説ともに良く、大きく騒がれた問題の運河を散策コースに改修した遊歩道のしょう遥・山一ガラスの見学にも満足している。文学碑の解説もよかった。自由見学・ショッピングの組み合せもほどよく取り入れられていて、小樽の街の理解に役立った。ただ、天候不順が残念でした。来年度は日高方面とか、白老・苫小牧方面のアイヌ文化・文学等の見学研修を企画いただければ幸いです。

3.　これからの課題

すでにみてきたように、私たちＰＴＡの公開講座が12年もの年輪を重ねてくることができましたのは、何よりもそこに本校の先生たちの頭の下がるような自発的な奉仕があったことを、まず挙げないわけにはゆきません。そしてまたこれを可能にさせてきたのは、学校を地域に開いて「父母・地域とともにある学校」という理想を追求するロマンと、常に学ぼうとする熱い志をもった父母・住民が存在していたからこそである、と言ってよいでしょう。

しかし考えてみますと、先生たちには子どもの教育という本来のお仕事があり、学校の施設、設備もそのためのものですから、これに支障を来す

ような負担や妨げは決してあってはなりません。そういう条件の下での公開講座となれば、一定の制約があるのも己むを得ないことなのかもしれません。他方、受講者の側からの要望を受け入れて講座の規模・内容等の拡大・充実ということになると、これまでのように先生たちの奉仕にだけ依存するわけにもゆかず、加えて校舎使用という会場の問題も出てくることにもなるでしょう。

「生涯学習」ということが一層云々されるようになっている折りだけに、ＰＴＡがこれにかかわるとなると、どのようなありようになってゆくのか、それはＰＴＡ本来の活動とどのような関係をもつことになるのか等々の検討を含めて、議論をすすめてゆかなくてはならない多くの課題があります。

生涯学習とは、年齢のいかんを問わず、その意志と意欲に基づいて自由に学び、さまざまの能力を育みつつ豊かな自己を実現してゆく営みであると思います。またそういうものであればこそ、それは市民のレベルからの自主的・自発的な活動に支えられて成り立つものでなくてはならないでありましょう。そのような立場に立ってみるなら、この１、２年の「公開講座のまとめ」の「あとがき」（実行委員会）にもあるように、「本講座がわがＰＴＡの研修講座として開設していることを考えますと、今のままの企画や運営でよいのか」「様ざまの角度から検討してみなくてはならない時期に来ているのかもしれません。そのためにも本講座の企画や運営に会員父母の方たちが今以上に携わり、それぞれの講座にも積極的に参加して、会員のニーズに応える方策を探ってみることが求められている」という指摘は、当を得ている提起であると思われます。

それにしましても、今日のように拡大された学区制の下では、高校には海のような校下があるばかりで、根ざすべき地域がかなり希薄であるのが現実であるように思われます。校下の多くの高校生が遠くのあれこれの学校に通ってゆく実態を、私たち親はどのように考えたらよいのでしょう。こうした状況の下にあっては、講座開講当初の「父母・地域とともにある学校」の姿は、今後とも求められてゆく課題であると思っております。私たちＰＴＡとしては、この視点だけは失ってならないと考えているところです。

（本稿は北海道高Ｐ連第38回大会 ― 昭和63年６月 ― の第１部会「高等学校教育の充実振興とＰＴＡ活動」において発表したものである。）

（文責　　）